

平成14年度実施事業 詳細評価シート

担当部課	保健福祉部福祉生活課	直通電話	72-3194	事業コード	303020105	課内	12	作成日	平成15年8月28日
		担当者	村谷 栄治	担当課長	鎌田 英暢	担当部長	棚橋 文男		

1 事業のアウトライン

1) 事業名	高齢者番屋の湯入浴利用券交付事業	開始年度	H7	終了年度	未定
		最近の事業内容見直し年度	H13		
2) 総合開発計画での事業体系	施策コード 3030201 高齢者福祉の充実 / 生きがいづくりの推進 / 生きがい事業の充実 3030301 高齢者福祉の充実 / 要介護高齢者対策の充実 / 在宅サービスの充実	大項目 / 小項目 / 細項目			
3) 個別計画での位置付け					

2 事業の内容

1) 事業の目的 何のために	高齢者に外出を促し、生きがいのある生活を送ってもらうために。
2) 目指す成果 何をどんな状態にする(何がどんな状態になる)ように	自宅に閉じこもりがちな高齢者が温泉効果による心身のリフレッシュと健康の維持・増進が図られるように。
3) 事業の方法 どんな手段を講じるのか	毎年4月より在宅の70歳以上の高齢者(施設入所者や入院者は原則除く)に申請ハガキを送付し、りんくると両出張所において無料入浴券を年間12枚を限度(申請月及び途中年齢到達者によって交付枚数減少)に交付する。また、一人で入浴困難な方には家族など介助者(最大2名まで)も無料で入浴できる介助付入浴券を交付する。対象者:市内在住6ヶ月を超える70歳以上在宅高齢者(H13年度より表に住所・氏名を記載した「切離し利用不可」の利用券に変更。また、交付時回収の利用状況アンケートを実施し、H15年度には事業継続の二一
4) 14年度に改善した事項、重点的に取り組んだ事項	なし
5) 事業の背景・社会状況・他の類似事業など	平成7年度から事業開始し、高齢化率の上昇(H8 12%、H12 14.2%、H13 14.9%、H14 15.5%)と共に対象者が年々増加傾向にある。(H8 4,469名、H12 5,473名、H13 5,953名、H14 6,226名) 道内11市で同様の事業実施。他の生きがいづくりの類似事業としては「憩の家」「寿の家」の入浴事業有り。また、障害者向けにも同様に「入浴利用券交付事業」有り。
6) 事業の立案や実施などへの市民参	なし
7) 評価中間公表への市民意見	なし

3 事業に投入した行政資源

項目	H12	H13	H14	H15 予算	H14 事業費の主な内訳	内訳確認
1) 直接事業費(千円)	7,707	6,153	6,553	7,768	扶助費(利用枚数21,253枚×300円/枚)	6,376
2) その他の間接経費(千円)						
3) 従事正職員の人件費(千円)	1,644	1,658	1,647			
総事業費(1~3の合計;千円)	9,351	7,811	8,200		H14 主な特定財源の内訳	金額(千円)
総事業費中の一般財源(千円)	9,351	7,811	8,200			
市民一人当たり一般財源使用額(円)	169	141	147			
事務に従事した正職員のべ人数	0.20人	0.20人	0.20人			

4 事業活動の結果

事業活動の結果を示す指標	H12	H13	H14	H15	各指標の説明・算定方法	
入浴券総利用枚数(枚)	目標値	54,307	55,143	55,539	64,729	目標値は、総交付枚数とした。 (15年度は当初予算時の予定交付人数)
	実績値	25,689	20,507	21,253		
	達成率	47.3%	37.2%	38.3%		
入浴券総交付者数(人)	目標値	5,473	5,953	6,226	6,346	目標値は、総交付対象者数とした。 (15年度は当初予算時の予定交付人数)
	実績値	4,817	4,883	4,913		
	達成率	88.0%	82.0%	78.9%		
平均利用額(円)	目標値	3,600	3,600	3,600	3,600	目標値は、年間一人当たりの費用(300円×12枚)とし、実績値は決算額を利用者総数で除した数値とした。
	実績値	1,599	1,260	1,298		
	達成率	44.4%	35.0%	36.1%		

5 事業の成果

事業名：高齢者番屋の湯入浴利用券交付事業

事業の成果を示す指標		H12	H13	H14	H15	各指標の説明・算定方法	確認方法
交付された入浴券を全て使い切った人数(人)	目標値		2,836	3,062	3,300	目標値は、全て使い切った場合の人数とした。 (H14年度よりアンケート実施)	利用状況アンケート結果より
	実績値		1,167	1,327	目標レベル		
	達成率		41.1%	43.3%			
	最終目標	年度に					
1回以上利用した人数(人)	目標値		2,836	3,062	3,300	目標値は、回答総数の値とした。 (H14年度よりアンケート実施)	利用状況アンケート結果より
	実績値		2,407	2,552	目標レベル		
	達成率		84.9%	83.3%			
	最終目標	年度に					
事業継続希望者数(人)	目標値			3,022	3,300	目標値は、回答総数とした。 (H14年度よりアンケート実施。15年度より項目追加)	利用状況アンケート結果より
	実績値			2,764	目標レベル		
	達成率			91.5%			
	最終目標	年度に					

6 事業の観点別評価

1) 事業活動の状況	【課長評価】	極めて良好	概ね良好	一部問題あり	大きな問題あり
【評価ポイント】 活動結果や活動効率、事業改善等の効果はどうだったか	総交付枚数に対する利用率が4割程度となっているが、交付率は約8割とねっており、必要性が高いことから事業活動としては概ね良好。(現在、表に住所・氏名を記載した切離し不可の利用券を交付しているため、他人に券を譲渡するなどということが激減した。)				
2) 有効性・必要性	【課長評価】	有効かつ必要	有効性に疑問あり	必要性に疑問あり	ともに疑問あり
【評価ポイント】 その事業は事業目的の達成に効果があるか、また、市民(対象者)に必要とされているか	入浴利用券の利用状況から、回数に個人差はあっても1回以上利用される方の割合が8割を超えており、また、事業継続に対する要望者9割を超えているため、事業の必要性は高い。(いずれも、アンケート調査結果より)しかし、総交付枚数に対する利用率が半分以下で、利用回数にバラツキがあることから一律年間12枚交付する現方法に疑問が残る。				
3) 市関与の妥当性	【課長評価】	極めて妥当	一定の妥当性あり	妥当性に疑問あり	妥当性が低い
【評価ポイント】 その事業に市が関与する必要があるか、市がどこまで関与するのが適当か	自宅に閉じこもりがちな高齢者を「入浴」という一つの手段を用いて外出させ、生きがいを持たせることは、「寿の家・憩の家」事業と同様に市の関与は必要である。				
4) 事業内容の妥当性	【課長評価】	極めて妥当	一定の妥当性あり	妥当性に疑問あり	妥当性が低い
【評価ポイント】 目指す成果を挙げるためには今の事業内容が適当か、受益と負担の関係に不公平はないか	近年の「高齢社会」や「核家族社会」の浸透の中で、高齢者が生きがいをもって在宅で暮らし続けていくことが非常に重要で、そのための多種多様な事業の一環として妥当性はあるが、受益と負担の関係から現在の無料提供を他のサービスと同様に見直す必要がある。				

7 平成14年度事業の総合評価

【評点の意味】 A: 極めて良好 B: 良好 C: 可も不可もない D: 問題がある E: 大きな問題がある	【課長評価】	B	【最終評価】	B (前年度)
	個別の利用回数の違いはあるが、交付者の8割程度は利用されていると推定でき、必要性も高く事業として良好と判断。		課長評価を了承する。	

8 今後の方向性・課題

担当課長評価	送迎手段の充実や身寄りのない高齢者に対する入浴介助者確保など細かい課題もあるが、この事業の大きな課題は、他の福祉サービス同様、受益者負担の平等性をどう確保するかで、増加する対象経費の抑制にも現在の一律利用券交付方式の完全無料から一部利用者負担方式の導入の検討も必要。(社会福祉審議会諮問予定事項)
最終評価	当該事業は概ね良好に維持しているが、利用率が4割程度と低いことから何らかの創意・工夫が必要である。以下課長評価を了承する。

9 平成16年度の方向性

* ; 担当課長 ; 最終評価	事業内容		
	現状維持	一部見直し	大幅見直し
事業規模	拡大方向		
	現状維持	*	
	縮小方向		
	統合 休・廃止		
上についての説明	利用者負担方式の導入等の検討必要。 16年度は現状維持		